

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 28 日現在

機関番号：32689

研究種目：若手研究

研究期間：2021～2023

課題番号：21K14325

研究課題名（和文）室町時代から江戸時代の日中庭園における構成の修辞に関する研究

研究課題名（英文）A Study on the Composition Rhetoric in Japanese and Chinese Gardens from the Muromachi Period to the Edo Period

研究代表者

方 ガイ (Fang, Kai)

早稲田大学・理工学術院・その他（招聘研究員）

研究者番号：70897024

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,500,000円

研究成果の概要（和文）：同じ時代の蘇州と京都を中心に、日本関西地方や中国江南地方で遺構及び文献調査を行い、伝統的な山水画と庭園の実例の物理的構成と相関関係を統計的手法で分析した。伝統的な山水画と庭園の実例の空間構成要素を得て、空間の修辞技法の基本単位として、空間構成要素の解析に基づき、伝統的な山水画と庭園の空間構造を定量的に計算・解析し、その空間構造特性を要約した。

空間的な修辞手法と空間概念の比較分析を通じて、異なるレベルの伝統的な山水画と庭園の間で空間的な修辞タイプの可能な違いを体系的に解明した。日本と中国庭園の違いや相関関係をまとめ、歴史的資料に照らし合わせて両者の間に存在しうるその脈流を解釈した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

1930年代以降、東洋園芸に関する現代の学術的な議論は、ほぼ1世紀に渡って続いている。本研究では、先行研究と現状の研究状況を踏まえ、日本と中国の造園を全体として捉え、庭園の概念と伝統的な山水画の空間表現に焦点を当てている。

その意義は以下の三点に大別される：A. 地理的観点を打ち破り、東洋造園を継続的な進化をする研究対象として扱い、分析及び解釈を進める。B. 言語学的な「修辞」という概念の導入により、伝統的な風景画や庭園の空間分析をより深い構造レベルで統合する。C. 今回の研究で収集した資料と日中庭園の調査結果については、今後の研究に資するためにデータベース化し保存している。

研究成果の概要（英文）：The study analyzed the physical structures and correlations of traditional landscape paintings and gardens in Suzhou and Kyoto from the same era using statistical methods. It quantitatively calculated and analyzed the spatial structures of traditional landscape paintings and gardens based on the analysis of spatial construction elements, summarizing their spatial structural characteristics.

Through comparative analysis of spatial rhetorical techniques and concepts, it systematically elucidated possible differences in spatial rhetorical types at different levels. It summarized the differences and correlations between Japanese and Chinese gardens, interpreting the historical context to understand the potential flows between the two.

研究分野：建築計画および都市計画関連

キーワード：江南地域 三遠理論 空間構成 空間修辞 構造主義 山水画 要素空間法

## 様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

日本及び中国における庭園の空間設計は同じ文脈の中に属しており、それらは山水画の影響を強く受けたものである。自然の観念や空間を表現するという意味においては、伝統的な山水画と庭園は一定の共通性を持つと言える。

しかし、伝統的な山水画や園芸活動に関する現在の研究は、物質的な形態の類似性や象徴的な意味に焦点を当てた様式論の議論がほとんどである。空間構造の創造と表現は伝統的な山水画と造園の核心・キーワードであるが、この視点を交えた議論は極めて少ない。

### 2. 研究の目的

本研究は日中における庭園と山水画を研究対象とし、伝統的な山水画と庭園の空間分析を修辞という概念を用いて行うものである。日中における庭園と伝統的な山水画の構成における思考と意匠を分析・解釈することで、伝統的な空間設計の研究手法を拡大発展させることを目的とする。

### 3. 研究の方法

#### (1) 基本データの収集

同じ時代の蘇州と京都の庭園を対象とし、研究対象に対して調査と資料整理を行う。時間に限りがあり、本研究の範囲を造園史全体に適用することはできないため、特定の時代の代表的な事例(中国蘇州 20 例、日本京都 30 例)を本研究の研究対象とする。室町時代から江戸時代には、中国と日本の庭園はどちらも成熟期にあり、他の時代と比較しても、この時期の山水画と庭園の関係はより深くて典型的であった。さらに、歴史資料と庭園の本体は比較的保たれているため、後世においても分析しやすい。基本データの収集は 2 つの部分に分かれている。1 つ目は現場で庭園の実測調査を行い空間データを取得する。2 つ目は関連する歴史資料、文学的な説明、山水画などのデータを整理する。調査と収集に基づいて、時間軸に沿って分類し、次の段階の調査の基本データベースとして使用する。

#### (2) 空間要素と空間構造の分析

データ照合に基づいて、伝統的な山水画と庭園の実例の物理的構成と相関関係を統計的手法で分析する。結果の分析、歴史的資料と文学的記述の解釈を通じて、伝統的な山水画と庭園の実例の空間構成要素を得て、空間の修辞技法の基本単位とする。

次に、空間構成要素の解析に基づき、伝統的な山水画と庭園の空間構造を定量的に計算・解析し、その空間構造特性を要約する。申請者が博士論文において開発したスペースシンタックス理論に基づく新たな「要素空間法」などの構造主義空間定量的研究法を使用して、庭園の空間構造を計算および分析する。分析結果に従って、分析対象の空間構造特性を要約する。次に、空間が特定の歴史的次元に埋め込み、類型学的手法と組み合わせることで分析を要約し、歴史上における東洋庭園の空間構造の全体像と系図を総括的に説明する。

#### (3) 語義的連想の分析

類型化の要素形態、要素の組み合わせと空間構造を修辞手法とみなす。これに基づいて、歴史的な研究方法を通じて、歴史的資料と文学的記述を解釈し、伝統的な山水画と庭園における異なる修辞手法によって空間概念の表現を分析する。つまり、空間的な修辞手法と空間概念の比較分析を通じて、この論文は、異なるレベルの伝統的な山水画と庭園の間で空間的な修辞タイプの可能な違いを体系的に解釈する。

#### (4) 日中伝統的な山水画と庭園空間修辞の比較

実例の空間的な修辞技法や修辞表現を含む日本と中国の庭園のケース分析の結果を比較する。両者の違いや相関関係をまとめ、歴史的資料に照らし合わせて両者の間に存在しうるその脈流を解釈する。

### 4. 研究成果

(1) 日本と中国の庭園の構造の特徴を全体的に把握するために、両国の庭園に対して広く一般的な調査を行なった。京都を含めて畿内の約 40 箇所の庭園を研究対象として、現場で写真、実測図及び周辺地域の自然環境など情報を含めるデータを収集した上で、基本的なデータの整理と製表をした。中国では、4 週間をかけて蘇州の庭園について適度に拡大調査を行い、庭園都市の調査範囲を杭州、湖州などの江南地域、つまり重要な庭園が繁栄していた地域にまで拡大した。

(2) 文献中の造園法と実際の造園現場を十分に比較し、重要な分析と結論を得た。また、日中の伝統的な山水画における空間の観点からの論述も予想通りの進展と成果を達成した。古代の造園に関する文献及び資料の整理、古代の庭園に関する図絵、作家系別の作品という 3 つの部分に分けて関連する資料の収集、整理及び製表をした。

#### (3) 分析結論：

1) 庭園図集中の庭景の形式と接続の構造的な分析を通じて、物語性の構造の意味で異なる歴史

時期の「庭景」の分類をまとめることを目指している。そして、借景、対景などの組景手法を整理し、景物の要素構成や構造特徴を探求した。さらに、類型学的な手法を組み合わせ、庭園と伝統的な山水画の空間構造を比較し、類型化、系統化の比較と総括を行った。"単景"（単一の景観）を単位として庭園と伝統的な山水画を類型化し、系譜化された比較と要約を行なった；論文が要約した単景の類型：峡谷 滝 洞窟 台地 懸崖 避雨。

2) 三遠理論を手がかりにして、京都の庭園における空間要素の組み合わせ関係を整理した。三遠は庭園と絵画の最も基本的な要素空間関係の組み合わせの方法で、空間構成において鍵となる役割を果たす。これにより、三遠理論を用いて異なる歴史期における京都庭園の空間構造特徴を分析する段階的な結論が形成された。"三遠"を空間構造の接続の基本的な方法として、"三遠理論"の基本的な定義と"三遠理論"に由来する空間構造のタイプに重点を置いた。論文が要約した三遠の空間構成：連なる山々(平遠)、群峰が立ち並び(高遠)、山を囲み水を抱く(深遠)。

3) 類型化された、系譜化された庭園要素の形態、組み合わせ方法、および構造の接続を修辞手法と見なし、空間修辞は空間を詩的な構造の接続表現にするものであり、空間修辞の方法に重点を置いて探求した。論文が要約した空間修辞：段階的に進む、下敷き、比喩、余白、相互説明など。

事例の空間修辞手法と空間修辞表現を含んで、日中庭園の違いと関連をまとめ、史料を組み合わせ、両者の存続と変遷の可能性を解釈した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 4件/うち国際共著 4件/うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 Zhang Zhehan, Fang Kai, Zhang Suihan, Zhang Wenda, Wang Xinpeng, Furuya Nobuaki	4. 巻 51
2. 論文標題 Physical environmental factors that affect users' willingness to visit neighbourhood centres in China	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Building Research & Information	6. 最初と最後の頁 1~20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/09613218.2023.2185583	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する
1. 著者名 Zhu Guoqing, Wang Xinpeng, Fang Kai, Zhang Wenda, Zhang Zhehan, Furuya Nobuaki	4. 巻 22
2. 論文標題 The transformation of the bright-dark space in Chinese traditional dwellings	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Journal of Asian Architecture and Building Engineering	6. 最初と最後の頁 1~19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/13467581.2023.2171736	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する
1. 著者名 Chen Lin, Fang Kai, Wang Xinpeng, Zhang Wenda, Zhu Guoqing, Zhang Zhehan, Furuya Nobuaki	4. 巻 22
2. 論文標題 The spatial feature and use pattern of external space in Chongqing traditional urban settlement	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Asian Architecture and Building Engineering	6. 最初と最後の頁 125~138
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/13467581.2021.2024435	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する
1. 著者名 Zhang Zhehan, Wang Xinpeng, Zhu Guoqing, Zhang Wenda, Chen Lin, Fang Kai, Xie Yunfei, Shen Muhan, Furuya Nobuaki	4. 巻 22
2. 論文標題 A micro-scale study on the spontaneous spatial improvement of in-between spaces in Chinese traditional districts considering the relationship between modifications and encroachment	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Asian Architecture and Building Engineering	6. 最初と最後の頁 783~801
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/13467581.2022.2052300	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

早稲田大学 理工学術院総合研究所プロジェクト研究 <a href="https://www.waseda.jp/fsci/wise/prj/2023/05/17/9004/">https://www.waseda.jp/fsci/wise/prj/2023/05/17/9004/</a> 早稲田大学研究者データベース <a href="https://w-rdb.waseda.jp/html/100002210_ja.html">https://w-rdb.waseda.jp/html/100002210_ja.html</a>
--

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計2件

国際研究集会 烏有園：東洋庭園	開催年 2021年～2023年
国際研究集会 天問：日中庭園の時間の形状	開催年 2023年～2024年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------